

58 アブラゼミによるリンゴ果実の被害症状

福島県果樹試験場 病理昆虫部・平成11～12年度試験研究成績書

1 部門名 果樹－リンゴ－病虫害防除 04－01－23000000
2 担当者 岡崎一博・荒川昭弘・阿部憲義
3 要 旨

複合交信攪乱剤を利用した殺虫剤削減体系下において、顕在化する害虫種を把握する中で、平成11年、セミによると思われるリンゴの果実被害が認められた。その症状は様々でこれまでの報告と異なるため、接種試験により加害症状を再調査した。

(1)平成12年8月2日にアブラゼミ成虫を採集し、翌日にリンゴ果実(‘ふじ’/M26/12年生)が着果している側枝を選び、アブラゼミを入れてネットで包み込んだ。対照区には果実に針で穴をあけ(約1cmの深さ)、ネットで包み込んだ。9月25日に果実を回収して調査した結果、接種した果実にのみアブラゼミによる加害症状が認められた。いずれも口針痕によるものであった。

(2)加害部の口針痕は、単独または複数様々であり、加害部はいずれもくぼんでやや硬くなった。加害部の表面は赤褐色に変色するものとしなないものがあった。加害部の内部は口針を刺した痕跡が認められ、その深さは1cm程度で一定でなかった。

(3)表面が変色した加害部の内部は、口針を刺した周囲がくさび状に褐変していた。変色していない加害部の内部は褐変がみられず、口針痕がわずかに変色する程度であった。このことから表面の変色は、内部褐変の程度により引き起こされるものと考えられた。

(4)再現された症状は平成11年の症状と一致することから、現地で確認された被害果のほとんどがアブラゼミによる吸汁害と判断された。針で穴をあけた場合にも同様の症状が再現され、表面部のくぼみは果実の肥大によって生じると推察された。また、加害時期は7月下旬から8月上旬頃と推定された。